

現代詩を義太夫節で

大阪で26日 浄瑠璃の魅力探る

浄瑠璃の可能性を探る公 詩は、高橋の詩集「声の庭」演「文楽の試み」が二十六に収録されている「僕はお日、大阪市中央区の山本能 母さん」と、建島の詩集「零楽堂で開かれる。現代詩を 度の大」の表題作など。文 義太夫語りで紹介するなど 楽太夫の豊竹英大夫と、文 して、双方の新たな魅力を 楽三味線の竹澤団吾の二人 引き出す。取り上げる詩の で節を付け、団吾の三味線 作者、高橋睦郎と建島哲も で英大夫が語る。この二編 舞台上に立ち、義太夫節とし の義太夫節は今回がお披露 して作品化するにあたっての 目。高橋と建島の二人によ り裏話なども披露する。

浄瑠璃は三味線を伴奏に 用い、この旋律に合わせて セリフを語る音曲の総称。

義太夫節は江戸時代中期に 竹本義太夫が創始した上方 浄瑠璃の一派で、義太夫節 を指して浄瑠璃と言う場合 もある。

義太夫節で披露する現代

詩は、高橋の詩集「声の庭」に収録されている「僕はお日、大阪市中央区の山本能 母さん」と、建島の詩集「零度の大」の表題作など。文楽太夫の豊竹英大夫と、文楽三味線の竹澤団吾の二人で節を付け、団吾の三味線で英大夫が語る。この二編の義太夫節は今回がお披露の目。高橋と建島の二人による自作の朗読もある。

また、古典作品「傾城阿波の鳴門」の「十郎兵衛屋敷の段」を、英大夫が団吾

の三味線で語る時間も設け、観客に古典と現代詩を聴き比べてもらう。英大夫は「現代詩と浄瑠璃それぞれに新たな良さを見いだしたい」と話している。

たい」と話している。